

高校生による復興支援ボランティア

平成28年熊本地震で被害が大きかった地域では、児童生徒を含む多くの県民が様々な困難に直面し、大きな心の痛みを経験しました。県教育委員会では、被災地の復興支援活動を通して、災害の痛みを共有し、被災者と支援者との心のきずなを深めるとともに、自身が社会の一員であることを自覚し、互いが支え合う社会の仕組みを考える機会とすることを目的として、「高校生による復興支援ボランティア」を6月18日（土）に実施しました。

当日は、荒尾・玉名・山鹿、水俣・人吉・球磨、牛深・天草・上天草の各地域から県立高校生84名、引率教員26名が参加しました。

参加した生徒は、「テレビや写真などで見ていたものよりも大変な被害で、言葉が出ませんでした」、「私たちが活動することによって、少しずつですが、被災者が元気になると感じ、本当に参加してよかった」と感想を述べています。

実施後、それぞれの学校に帰った生徒たちは、各学校において、他の生徒たちにその様子を伝えるとともに、自分たちにできることを考えて行動する大切さなどを報告しました。

今後も、熊本の復興を支える心のきずなを深めることで、更に支援の輪が広がっていくよう期待します。

○各地域から県庁に集合



○バスで益城町を通過して西原村へ



○西原村での農作業支援活動（倒れた椎茸栽培の原木の復元）

